

第2学年2組 音楽科学習指導案

授業日 平成30年7月5日(木) 5校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 佐藤 史人
会場 2年2組教室

1 題材名

「野菜の気持ち～レッツ・ボディパーカッション～」

2 本題材の価値

本題材は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容A表現(3)の内容を受けて設定した。

A 表現(3) 音楽づくり
ア (イ) どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもつこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(8)
〔共通事項〕 ア 音色, リズム, 強弱 イ 反復, 変化

本題材では、音楽を形づくっている要素(本題材では音色, リズム, 強弱, 反復, 変化。以下: 要素)の働きを生かした表現を工夫し、伝えたいと思っている「野菜の変化や成長の様子」に合った音楽をつくり、表現することができるようにする。

本題材では、生活科の単元「やさいをそだてよう」との関連を図った教科等横断的学習単元である。

小学校学習指導要領 生活 2内容(7)
動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に
関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気
付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

生活科との関連を図ることは、次のような価値がある。

一つ目は、育成を目指す資質・能力の面から関連的な学習を進めることができるところである。子どもは、愛着をもって野菜を育てる中で、「葉っぱがだんだん大きくなった。触ったらざらざらしていたよ」「房ごとにトマトの実がついてきたよ」などと、大きくなっていくことに気付いたり、固有の特徴に気付いたりしていき(生活科①知識・技能)。このような気付きは、音楽づくりで「実を表すこの音をどのように音楽にしていこうかな」と表現を工夫する(音楽科①知識・技能、②思考力・判断力・表現力)ときのイメージの基となる。「よく見ると、一つ一つの実は形や大きさが違うぞ」と新たな気付きを生み出し、それをまた音楽表現に生かすなど、子どもは、生活科の体験活動と音楽科の表現活動を繰り返しながら、学習活動の質を高めていくことができる。また、タブレット端末で記録した野菜の成長過程の画像は、変化や成長の様子を思い起こしたり新たに気付いたりするきっかけとなり、音楽表現に生かすことができる(ツール活用能力)。

二つ目は、野菜の姿そのものが、体を動かして表現する対象として適切であるということである。本題材では、音楽づくりをする際に、グループで体を動かす活動を取り入れさせる。体を動かして表現することで、子どもは、楽しみながら資質・能力を発揮することができる。野菜に親しみをもって接している子どもは、「こんな感じで太陽に向かって葉っぱを広げてよね」「いっぱい実ができて重そうだけど、うれしいだろうな」などと、体を動かしながら野菜の立場に立って様子を考える(生活科②思考力・判断力・表現力、③態度)。そして、「この動きで、赤い実がたくさんあるように『ポポポン』を順番に反復して言おうよ」などと、楽しく体を動かしながら考えたことを、友達と一緒に音楽表現に生かそうと表現を工夫する(音楽科②思考力・判断力・表現力、③態度)。

このように、野菜の成長への気付きと、音楽づくりとの関連を図ることで、生活科で育成を目指す資質・能力と、音楽科で育成を目指す資質・能力を培うことができる。

3 本題材で目指す姿

要素の働き生かした表現を工夫し、伝えたい野菜の変化や成長の様子に合った音楽をつくる子ども
具体的には、音や音楽について、要素(音色, リズム, 強弱, 反復, 変化)とその働きに着目し、
とらえたことと自己のイメージとを関連付けて考えるという「見方・考え方」(以下:「音楽的な見方・考え方」)を働かせ、どのように音を音楽にしていくなかについて考える力(音楽科②思考力・判断力・表現力)を発揮して音楽をつくる姿。

例えば、「私たちは『野菜の気持ち! ミニトマト』という作品をつくりました。まずしゃがんで、みんなで『タン タン タン (ウン)』のリズムを反復して立ち上がります。どんどん大きくなっている様子です。次に、一人一人が順番に『ポポポン』『パパン』『ピポポン』と言いながら手をグーにします。いろんな大きさのミニトマトがなったのです。最後に、『ブーン』とみんなで言って変化させます。声の高さがいろいろで、『いっぱいミニトマトができてうれしいよ』と歌っている音楽です。楽しいミニトマトの音楽ができました。ミニトマトがもっと好きになりました」などと、伝えたい野菜の変化や成長の様子に合った音楽をつくる姿。

4 本単元で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全19時間

単元カード参照

6 指導の構想

これまでに、音楽科「ひょうしをかんじてリズムをうとう」では、ボディパーカッション「花火」

を学習し、体を使って出せる音、複数のリズム打ち（4拍子）、音楽の仕組みの「反復」「変化」を学習している（音楽科①知識・技能）。

また、生活科「やさいをそだてよう」では、一人一人が野菜を育て、野菜の葉や実には固有の形や色があることを知り、野菜の成長について気付いたことを言葉や絵にして表している。子どもは、愛着をもって野菜を育てる中で、野菜と自分とのかかわりに着目し、自分の生活と関係付けて考えるという「見方・考え方」（以下：身近な生活にかかわる「見方・考え方」）を働かせて、「毎日水をあげたら葉っぱがだんだん大きくなった。触ったらざらざらしていたよ」などと、大きくなっていくことに気付いたり、固有の特徴に気付いたりしている（生活科①知識・技能）。また、タブレット端末で記録した野菜の成長過程の画像を活用して、変化や成長の様子を思い起こしたり新たに気付いたりしている（ツール活用能力）。

本題材では、まず、「野菜の気持ち！ミニ劇場」（グループで、野菜の変化や成長の様子を音や体の動きで表現する発表会）を設定する。その際、学習の条件①②③を子どもと確認する。

- 条件①：4分の4拍子、4小節の作品。
 条件②：使う音は、声と体を使って出せる音。
 条件③：タブレット端末で記録した野菜の写真1枚をイメージの基とする。

子どもは、自分で育てた野菜のことを表現したいと考える。そこで、グループ（同じ野菜を育てる者同士）で体を動かしながら行う音楽づくりの時間を設定する。野菜に親しみをもって接している子どもは、「音楽的な見方・考え方」を働かせて「こんな感じで太陽に向かって葉っぱを広げようね」「タン・タン・タン・ウンのリズムから大きくたたいて手を太陽に広げようよ」などと、野菜の立場に立って様子とその音楽表現を考える（生活科②思考力・判断力・表現力、③態度、音楽科①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。そして、楽しく体を動かしながら考えたことを、友達と一緒に音楽表現に生かそうとする（音楽科③態度）。子どもは、「タン・タン・タン・ウンのリズムを手で打ってから両手で広げようよ」などと、野菜の葉や実の様子を即興的に表現しながら（音楽科①知識・技能）、お気に入りのリズムや音、体の動きをグループで決め、表現をタブレット端末に記録して（ツール活用能力）、満足している。一方で、なかなか表現を工夫できず音楽づくりが進まないグループもある。この段階において、子どもの作品は、既習のリズムや即興的な短い音の表現にとどまっていたり、意図的に音楽の仕組み（反復、変化）を使った表現になっていない（C0）。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

音楽のモデルA（声あり、ある小節の反復なし、リズムや強弱の変化なし）と音楽のモデルB（声あり、ある小節の反復あり、リズムや強弱の変化あり）を提示し、感じたことを問う。

モデルA（声あり、反復なし、リズム変化なし）

Fさん □□□□ ■■■■ ◎◎◎◎ ○○○●

Tさん □□□□ ■■■■ ◎◎◎◎ ○○○●

Kさん □□□□ ■■■■ ◎◎◎◎ ○○○●

（向かい合って）足踏み ひざ両手打ち 両手打ち交互 両手打ち一外へ開く

声「ひゅるひゅる…」

【イメージした「きゅうり」の様子】

下からだんだん大きくなって、つるが出て花が咲く。

モデルB（声あり、反復あり、リズム変化あり）

Fさん □□□□ ■■■■ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ○○○○○●

Tさん □□□□ ■■■■ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ○○○○○●

Kさん □□□□ ■■■■ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ○○○○○●

（向かい合って）足踏み ひざ両手打ち 両手打ち交互 両手打ち交互 両手打ち交互 両手打ち一外へ開く

声「ひゅるひゅる…」 声「ひゅるひゅる…」 声「ひゅるひゅる…」

反復（3回）変化（だんだん大きく）

リズム変化

【イメージした「きゅうり」の様子】

下からだんだん大きくなって、つるがどんどんのびて出て、ゆっくり花が咲く。

音楽のモデルを比較聴取させ、要素（反復、変化）とその働きによって、感じるイメージ（野菜の変化や成長の様子等）が違うことに気付かせるための働き掛けである。

音楽づくりに興味をもち、即興的な音楽表現に満足している子どもに、イメージの基となった写真と、音楽のモデルを2曲提示する（教師3人で実演した映像）。まず、イメージの基となった写真から、野菜の様子等について、全体でイメージを確認する。音楽のモデル2曲には、野菜の成長を表す簡単なリズムや体の動きがある。モデルAは、これまでに子どもがつくった音楽のように、既習のリズムや即興的な短い音で表現されている。モデルBは、リズムや奏法がモデルAと同じ表現で始まり、ある小節が「反復」され、強弱も変化している。そして、最後の小節のリズムが「変化」して表現されている。それに伴い動きも違って見える。着目させたいのは音楽の仕組みの「反復」と「変化」があることであり、2曲を比較聴取させることで「音楽的な見方・考え方」を引き出し、イメージの違いに気付かせるのである。子どもは、2曲を比較聴取し、モデルBの音楽の仕組みの「反復」と「変化」に着目する。

2曲を聴いて感じたことを問う。子どもは、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、「モデルAは大きくなって花が咲いたみたいと感じた」「モデルBは、たくさんつるが巻き付いて花が咲いた感じがした」「モデルBは最後にゆっくり花が咲いたんだと感じた」などと答え、感じるイメージが違うことに気付く。モデルの楽譜を提示し、モデルBは音楽の仕組みの「反復」（繰り返すこと）と「変化」（表現が変わること）を使って表現していたことを確認する。そして、「それでは、今日の音楽づくりのめあてを書くよ」と投げ掛けると、子どもは、「反復と変化を使って音楽をつくろう」「反復と変化でもっと野菜のことを伝える音楽をつくろう」などと問いをもつ。

働き掛け2

気付いた要素とその働きのよさを問い、条件を整理してから、音楽づくりの時間を設定する。

表現の工夫の見通しをもたせ、音楽づくりをさせるための働き掛けである。

問いをもった子どもに、気付いた要素とその働きのよさを問う。「音楽的な見方・考え方」を明確にもたせ、気付いた要素（反復、変化）の視点で表現の仕方を考えさせるためである。子どもは、「反復でたくさん花が咲いていく様子が表現できる」「変化で実ができたことを表現できる」などと、「音楽的な見方・考え方」を働かせて表現の仕方を考える。

アイデアを共有できるように板書し、それに伴う学習の条件の変更を整理する。子どもは、表現の工夫の見通しをもつ。

- 条件①変更：4分の4拍子，4小節の作品より長くなる（反復するから）。
 条件②：使う音は，声と体を使って出せる音。
 条件③：タブレット端末で記録した野菜の写真1枚をイメージの基とする。
 条件④追加：「反復」と「変化」を表現に使う。

その後，音楽づくりの時間を設定する。子どもは，体の動きを合わせて，野菜の変化や成長の様子とその表現の仕方について考え（生活科①知識・技能，②思考力・判断力・表現力），声やリズムを相談したり試したりする（協働性）。そして，どのように音を音楽にしていくかについて考える力（音楽科②思考力・判断力・表現力）を発揮して，音楽の仕組みの「反復」と「変化」を使って，伝えたいと思っている「野菜の変化や成長の様子」に合った音楽をつくり，表現していく。
 ある程度表現ができれば教師に見せることとする。子どもは，できたところまでを教師の前で表現し，教師がタブレット端末で撮影した記録動画を見ながら，出来具合を確認する（ツール活用能力）。

働き掛け3

クイズ形式の中間発表会を設定し，気付いたことを問い，音楽づくりの時間を設定する。

自分の作品と友達作品とを比較聴取させ，作品をよりよく表現するための新たな工夫の視点をもって音楽づくりさせるための働き掛けである。

ある程度作品を形にした子どもに，中間発表会を提案する。発表する際には，自分たちの野菜の写真を2枚（1枚はイメージの基となった写真，もう1枚は別な様子の写真）を提示して，「どちらの写真を表現しているでしょうか」とクイズ形式で発表することとする。発表する子どもに自分の作品をとらえさせるため，聴く子どもに表現の工夫を発見させるためである。

少し練習した後，中間発表会を設定する。発表する子どもは，クイズ形式で表現を発表する（音楽科①知識・技能）。聴く子どもは，2枚の写真を見比べながら友達の作品を聴く。そして，自分の作品とも違う工夫のよさや，新たな工夫の視点に気付く。中間発表を聴いて気付いたことを問う。子どもは，「声が一人ずつ反復されて，どんどんミニトマトができていくようでした」「一人一人の声が変わっていく（変化する）ので，いろんな大きさのナスができたみたいでした」などと気付き（音楽科①知識・技能，生活科①知識・技能），表現の工夫のよさや新たな工夫の視点を出し合う。そして，それらを生かしてさらに音楽づくりをしたいと考える（音楽科③態度）。

再び音楽づくりの時間を設定する。子どもは，自分たちのグループの作品について，さらに要素（音，色，リズム，強弱，反復，変化）の動きを生かした表現を考え，伝えたい「野菜の変化や成長の様子」に合った音楽表現を試したり修正したりしながら音楽づくりをする（音楽科②思考力・判断力・表現力，生活科②思考力・判断力・表現力）。友達と互いの体の動きや音楽表現をアドバイスし合いながら（協働性），作品を仕上げていく。また，できたところまでを教師の前で表現し，教師がタブレット端末で撮影した記録動画を見ながら，出来具合を確認する（ツール活用能力）。

働き掛け4

完成発表会を設定する。

音楽づくりの知識・技能を発揮させるための働き掛けである。

完成発表会「野菜の気持ち！ミニ劇場」を設定する。子どもは，音楽づくりに関する技能（音楽科①知識・技能）を発揮して，音楽作品を発表する。これまでの一連の学習を通して，要素の動き生かした表現を工夫し，伝えたい野菜の変化や成長の様子に合った音楽をつくる子ども（Cn）になる。

働き掛け5

音楽作品の特徴を振り返りシートに記述させる。

音楽づくりで発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

完成発表会を終えた子どもに，振り返りシートを配付する。子どもは，振り返りシートに音楽作品の特徴を記述し（音楽科①知識・技能，②思考力・判断力・表現力，生活科①知識・技能，③態度），音楽づくりで発揮した資質・能力と，その結果どのような作品をつくることができたのかを自覚する。

7 本時の構想（本時 15/19時間）

(1) ねらい

音楽のモデルの比較聴取を通して，要素とその働きによって感じるイメージが違うことに気付き，表現の工夫の見通しをもって，野菜の変化や成長の様子と，その表現の仕方について考え（生活科①知識・技能，②思考力・判断力・表現力），どのように音を音楽にしていくかについて考える力（音楽科②思考力・判断力・表現力）を発揮して，音楽づくりをすることができる。

(2) 主張（展開）45分

このような子どもに（C0）

【音楽科「ひょうしをかんにてリズムをうとう」】

- ボディパーカッション「花火」を学習し，体を使って出せる音，複数のリズム打ち（4拍子），音楽の仕組みの「反復」を学習している（音楽科①知識・技能）。

【生活科「やさいをそだてよう」】

- 野菜が大きくなっていくことや，固有の特徴に気付いている（生活科①知識・技能）。
- タブレット端末で記録した野菜の成長過程の画像を活用して，気付いたことを思い起こしたり新たに気付いたりしている（ツール活用能力）。

【音楽科「野菜の気持ち～レッツ・ボディパーカッション～」】

- 「野菜の気持ち！ミニ劇場」を知り，自分で育てた野菜のことを表現したいと考えている。
- 野菜に親しみをもって接し，野菜の立場に立って様子とその音楽表現を考えている（生活科②思考力・判断力・表現力，③態度，音楽科①知識・技能，②思考力・判断力・表現力）。

- 楽しく体を動かしながら考えたことを、友達と一緒に音楽表現に生かそうとしている（音楽科③態度）。
- 野菜の葉や実の様子を即興的に表現しながら（音楽科①知識・技能）、お気に入りのリズムや音、体の動きをグループで決め、できた表現をタブレット端末に記録して（ツール活用能力）、満足している。一方で、なかなか表現を工夫できず音楽づくりが進まないグループもある。
- 既習のリズムや即興的な短い音の表現にとどまっていたり、意図的に音楽の仕組み（反復、変化）を使った表現になっていない（C0）。

..... 本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 音楽のモデルA（声あり、ある小節の反復なし、リズムや強弱の変化なし）と音楽のモデルB（声あり、ある小節の反復あり、リズムや強弱の変化あり）を提示する。
- ・説明「みなさん、だんだんボディパーカッションができてきましたね。でも、なかなか表現が思い浮かばなくてどう工夫しようかと困っているグループもありました。そこで、みなさんの参考になればいいなと思って、先生も野菜を表現するボディパーカッションをつくってみました。これがイメージの基となった写真です」
- ・指示「この写真から分かるきゅうりの様子をみんなで確認しましょう」
- ・説明「それでは、このきゅうりの様子を、どんな音楽で表現しているのでしょうか。ボディパーカッション『野菜の気持ち！キュウリ』です。2曲つくりました。モデルAとモデルBです。映像で聴いてください」

<p>モデルA（声あり、反復なし、リズム変化なし）</p> <p>Fさん □□□□ □□□□ □□□□ □□□□</p> <p>Tさん □□□□ □□□□ □□□□ □□□□</p> <p>Kさん □□□□ □□□□ □□□□ □□□□</p> <p>(向かい合って)足踏み ひざ両手打ち 両手打ち交互 両手打ち一へへ風く</p> <p>声「ひゅるひゅる…」</p> <p>【イメージした「きゅうり」の様子】 下からだんだん大きくなって、つるが出て花が咲く。</p>	<p>モデルB（声あり、反復あり、リズム変化あり）</p> <p>Fさん □□□□ □□□□ □□□□ □□□□</p> <p>Tさん □□□□ □□□□ □□□□ □□□□</p> <p>Kさん □□□□ □□□□ □□□□ □□□□</p> <p>(向かい合って)足踏み ひざ両手打ち 両手打ち交互 両手打ち交互 両手打ち交互 両手打ち一へへ風く</p> <p>声「ひゅるひゅる…」 声「ひゅるひゅる…」 声「ひゅるひゅる…」</p> <p>【イメージした「きゅうり」の様子】 下からだんだん大きくなって、つるがどんどんのびて出て、ゆっくり花が咲く。</p>
--	--

- ※ 教師3人で実演したモデルAとモデルBの映像を、大型テレビで順に再生する。
- ※ 必要に応じて再度聴かせる。
- 感じたことを問う。
 - ・発問「2曲を聴いて、感じたことは何ですか」
 - ・補助発問「どの表現からそう感じたのですか」
- ※ 補助発問「○○さんと同じように感じた人はいますか」
- ※ 補助発問「他に感じたことはありますか」
 - ・説明「モデルBは『反復』（繰り返すこと）と『変化』（表現が変わること）を使って表現していたのですね」
- ※ モデルの拡大楽譜を提示し、板書で「反復」と「変化」を可視化する。
 - ・説明「音楽のモデルは参考になりそうかな。では、『今日の音楽づくりのめあて』を書くよ」

このようになり (C1)

- 音楽のモデルを比較聴取する。
 - ・きゅうりの花の写真だね。
 - ・つるがたくさん巻き付いている。
 - ・知ってる。ぼくのきゅうりもつるがいっぱい巻き付いているよ。
 - ・モデルAは、僕たちと同じ感じの音楽だね。
 - ・モデルBは、途中からモデルAと違う。反復している（繰り返している）ところがあるぞ。
 - ・「ひゅるひゅる」って、きゅうりのつるのことかな。
- 要素（反復、変化）とその働きによって、イメージが違うことに気付く。
 - ・モデルAは、大きくなって花が咲いたみたいに感じました。
 - ・モデルBは、たくさんつるが巻き付いて、だんだん大きくなって花が咲いた感じがしました。
 - ・「ひゅるひゅる…」とたたくところを反復して（繰り返して）いるところから感じました。
 - ・うん、同じです。音がだんだん大きくなっていったところもそう感じました。
 - ・モデルBは、最後にゆっくり花が咲いたんだと感じました。
 - ・「タタタタタタン」と、リズムが変化した（違うリズムになった）ところから感じました。
- <今日の音楽づくりのめあて>
 - ・反復と変化を使って音楽をつくらう。
- ※ のように、要素とその働きを感じたことの原因として発言したり、うなずいたり、挙手で同意したりしている状態を、「音楽的な見方・考え方」を働かせた姿と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 気付いた要素とその働きのよさを問う。
 - ・発問「みなさんが気付いた反復を表現に使うと、どんなよさがありますか」
 - ※ 補助発問「□□さんと同じように思っている人はいますか」
 - ※ 補助発問「他にどんなよさがありますか」
 - ※ アイデアを共有できるように板書する。
 - ※ 「変化」についても同様に問う。
- 条件を整理してから、音楽づくりの時間を設定する。
 - ・説明「では、学習の条件を整理しますよ」
 - ※ 「反復」と「変化」に伴う学習の条件の変更や追加を整理する。

- 条件①変更：4分の4拍子，4小節の作品より長くなる（反復するから）。
 条件②：使う音は，声と体を使って出せる音。
 条件③：タブレット端末で記録した野菜の写真1枚をイメージの基とする。
 条件④追加：「反復」と「変化」を表現に使う。

- ※ 整理した条件を板書する。
 ・指示「それでは，音楽づくりを始めましょう」
 ・指示「ある程度表現ができたグループは，先生に見せてください」
 ※ 見せに来たグループの表現を，タブレット端末で撮影し，タブレット端末を渡す。

このようになり (C2)

- 表現の工夫の見直しをもつ。
 ・「反復」で，たくさん花が咲いていく様子が表現できると思います。
 ・うん，同じです。
 ・「反復」で，どんどん実が増える様子が表現できると思います。
 ・「変化」で，小さい音から大きな音にして，実が大きくなったことを表現できると思います。
 ・同じです。
 ・「変化」で，きゅうりが曲がっていく様子が表現できると思います。
 ・「反復」するから4小節より長くなるね。
 ○ 条件に合わせて，音楽づくりをする。
 ・この動きで，実がたくさんあるように「ポポボン」を言おうよ。一人ずつ順番に反復して。
 ・イメージは「実がたくさんある」って書くね。
 ・それじゃあ，最後に「ブーン」って変化で声を出したらどうかな。
 ・いいね。腕を前から下に「ブーン」って動かすと，実がぶら下がっている感じが出るね。
 ・ここまでできたね。先生に見せよう。
 ・撮ってもらった動画を見てみよう。実がたくさんある感じが表現できてるよ。
 ※ のように，伝えたい野菜の変化や成長の様子に合った表現の仕方を音楽の仕組みを意識して発言したり，うなずいたり，挙手で同意したりしている状態を，「**音楽的な見方・考え方**」を働かせた姿と判断する。
 ※ のように，伝えたい野菜の変化や成長の様子について，発言したり，同意したり，記述したりしている状態を，**生活科①②**を発揮した姿と判断する。
 ※ のように，伝えたい野菜の変化や成長の様子に合わせて「反復」や「変化」を使って表現を工夫すると発言したり，同意したり，記述したりしている状態を，**音楽科②**を発揮した姿と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け3-①】

- クイズ形式の中間発表会を設定する。
 ・説明「ある程度表現を工夫できていますね。それでは，中間発表会をしたいと思います。野菜の写真2枚を出して，『どちらの写真を表現しているでしょうか?』とクイズ形式で発表してください。写真2枚とは，1枚はイメージの基となった写真，もう1枚は別な様子の写真です」
 ※ 少し練習する時間を設定する。
 ※ 時間の関係ですべてのグループ発表はできないことを確認する。
 ・指示「それでは，発表してください」
 ※ 発表グループの近くに，写真2枚を掲示する。
 ※ クイズの正解を確認する。
 ○ 中間発表を聴いて気付いたことを問う。
 ・発問「中間発表を聴いて，気付いたことは何ですか」
 ※ 出された意見を板書で整理する。

このようになり (C3-①)

- 自分の作品をクイズ形式で発表する。
 ・イメージの基の写真は実ができてる写真だから，別な写真（例：つぼみの写真）も選んでクイズ形式で発表しよう。
 ・発表します。（表現の記述は省略）どちらの写真を表現しているでしょうか？
 ・分かった。「ポポボン」だから実ができたんだ。こっちの写真だと思います。
 ・正解です。
 ○ 自分の作品と友達の作品との比較聴取を通して新たな工夫の視点をもつ。
 ・「声が一人ずつ反復されて，どんどんミニトマトができていくようでした」
 ・一人一人の声が変化で変わっていくので，いろんな大きさのナスができたみたいでした。
 ・一人ずつ反復すると実が増えていく感じがいいね。もっと工夫できそう。
 ・あの表現を，私たちの作品でもやってみよう。
 ※ のように，クイズ形式で表現を発表する姿，表現の工夫に気付いた状態を，**生活科①**を発揮した姿と判断する。
 ※ のように，クイズ形式で表現を発表する姿，表現の工夫に気付いた状態を，**音楽科①**を発揮した姿と判断する。
 ※ のように，新たに気付いた工夫の視点を取り入れて工夫しようと発言したり，同意したり，楽譜に記述したりしている状態を，**音楽科③**を発揮した姿と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け3-②】

- 音楽づくりの時間を設定する。
 - ・指示「それでは、再び音楽づくりをしましょう」

このようになり (C3-②)

- 音楽づくりをする。
 - ・もっと表現を工夫して音楽をつくろう。
 - ・「ポポボン」と言ったら、次の人は「パンパン」、その次の人は「ピポボン」なんてどうかな。
 - ・いいね。いろんな大きさのミニトマトみたいに表現できるね。
 - ・じゃあ、最後の「ブーン」は、一人一人違う高さの声で響かせようよ。
 - ・ここまでできたね。先生に見せよう。
 - ・撮ってもらった動画を見てみよう。いろんな大きさのミニトマトが表現できてるよ。
- ※ のように、さらに表現の工夫を考えて発言したり、同意したり、楽譜に記述したりしている状態を、**音楽科②**を発揮した姿と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 完成発表会を設定する。
 - ・説明「それでは、完成発表会『野菜の気持ち！ミニ劇場』を行いましょう」
- ※ 発表の舞台を準備する。
- ※ 必要があれば、立ち位置や作品の録画について助言する。
- ※ 発表後の作品を賞賛しながら、発揮した資質・能力を即時的に価値付ける。

このようになる (Cn)

- 作品「野菜の気持ち！○○○○」を発表する。
 - ・録画の準備もできているから、発表していいよ。
 - ・発表します。タイトルは「野菜の気持ち！ミニトマト」です。 ※ 作品の内容（文章で示す）
 - ・まず、しゃがんで、みんなで「タン タン タン (ウン)」のリズムを反復して立ち上がる。
 - ・次に、一人一人が順番に「ポポボン」「パンパン」「ピポボン」と言いながら手をグーにする。
(いろんな大きさのミニトマトになった表現)
 - ・最後に、変化で「ブーン」とみんな言う。
 - ・声の高さがいろいろで、「いっぱいミニトマトができてうれしいよ」と歌っている音楽。
(音楽科①②, 生活科①③)

このように働き掛けると【働き掛け5】

- 音楽作品の特徴を振り返りシートに記述させる。
 - ・指示「振り返りシートを配りますので、作品の特徴を書きましょう」
- ※ 希望があれば、録画した動画を見ながら振り返ってもよいこととする。

このようになる (C5)

- 学習のまとめとして音楽作品の特徴を振り返り、振り返りシートに記述する。
 - ・振り返りシートを書いて音楽作品の特徴を振り返ろう。
 - ・最初の記録動画から最後の記録動画を見て、工夫したことを確認しよう。
 - ・私たちは「野菜の気持ち！ミニトマト」という作品をつくりました。まずしゃがんで、みんなで「タン タン タン (ウン)」のリズムを反復して立ち上がり、どんどん大きくなっている様子です。次に、一人一人が順番に「ポポボン」「パンパン」「ピポボン」と言いながら手をグーにします。いろんな大きさのミニトマトになったのです。最後に、変化で「ブーン」とみんな言います。声の高さがいろいろで、「いっぱいミニトマトができてうれしいよ」と歌っている音楽です。楽しいミニトマトの音楽ができました。ミニトマトがもっと好きになりました。
(音楽科①②, 生活科①③)

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け1と2と3と4を受けて、各下線で示したように「見方・考え方」を働かせ、各下線で示したように資質・能力を発揮して、 のように課題解決したかどうかを、記録動画や楽譜シート、振り返りシートの記述から判断する。
- ② 働き掛け1と2を受けて、各下線で示したように想定した「見方・考え方」を働かせたかどうかを、発言、うなずき、挙手で同意する様子から検証する。
- ③ 働き掛け2と3と4を受けて、各下線で示したように想定した資質・能力が発揮されたかどうかを、発言や同意の様子、記録動画、楽譜シートや振り返りシートの記述から検証する。
- ④ 働き掛け5を受けて、想定した資質・能力を自覚したかどうかを、振り返りシートの記述から検証する。